

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構への くすりの副作用報告について

医療サービス課

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下「PMDA」という。）では、医療関係者や企業からはもとより、患者さんからもくすりの副作用報告を受付けています。

副作用報告の受けは、厚生労働省が定める「患者からの医薬品副作用報告実施要領」に基づき、2019年3月26日から正式に実施されており、患者さんからの副作用情報がこれからのくすりの安全な使用に役立てられます。

報告された情報は、症状の重さや添付文書において既に知られている副作用であるかどうかの確認が行われ、さらに、製薬企業・医療機関から報告された副作用等の情報も含め、さらなる安全対策が必要かどうかの検討が行われます。個人が特定されない形に加工した報告データは、厚生労働省及び必要に応じて当該医薬品を供給する製造販売業者に提供され、また一般にも公開されます。

くすりの副作用が疑われる症状がある方は、まずはPMDAのホームページをご覧ください。



ピー・エム・ディー・イー くすりの副作用が出たら、
Pmdaにお知らせください
患者副作用報告

詳細は
患者副作用報告 検索

くすりの副作用かしら...

PMDAくすり相談窓口 ☎03-3506-9457
月曜日～金曜日 午前9時～午後5時（祝日・年末年始を除く）

独立行政法人 PMDA 医薬品医療機器総合機構 厚生労働省

⚠️ ご注意 ⚠️
「医薬品副作用被害救済制度」による給付金請求は患者副作用報告とは別の手続きが必要です。
詳細は 医薬品副作用被害救済制度 検索

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

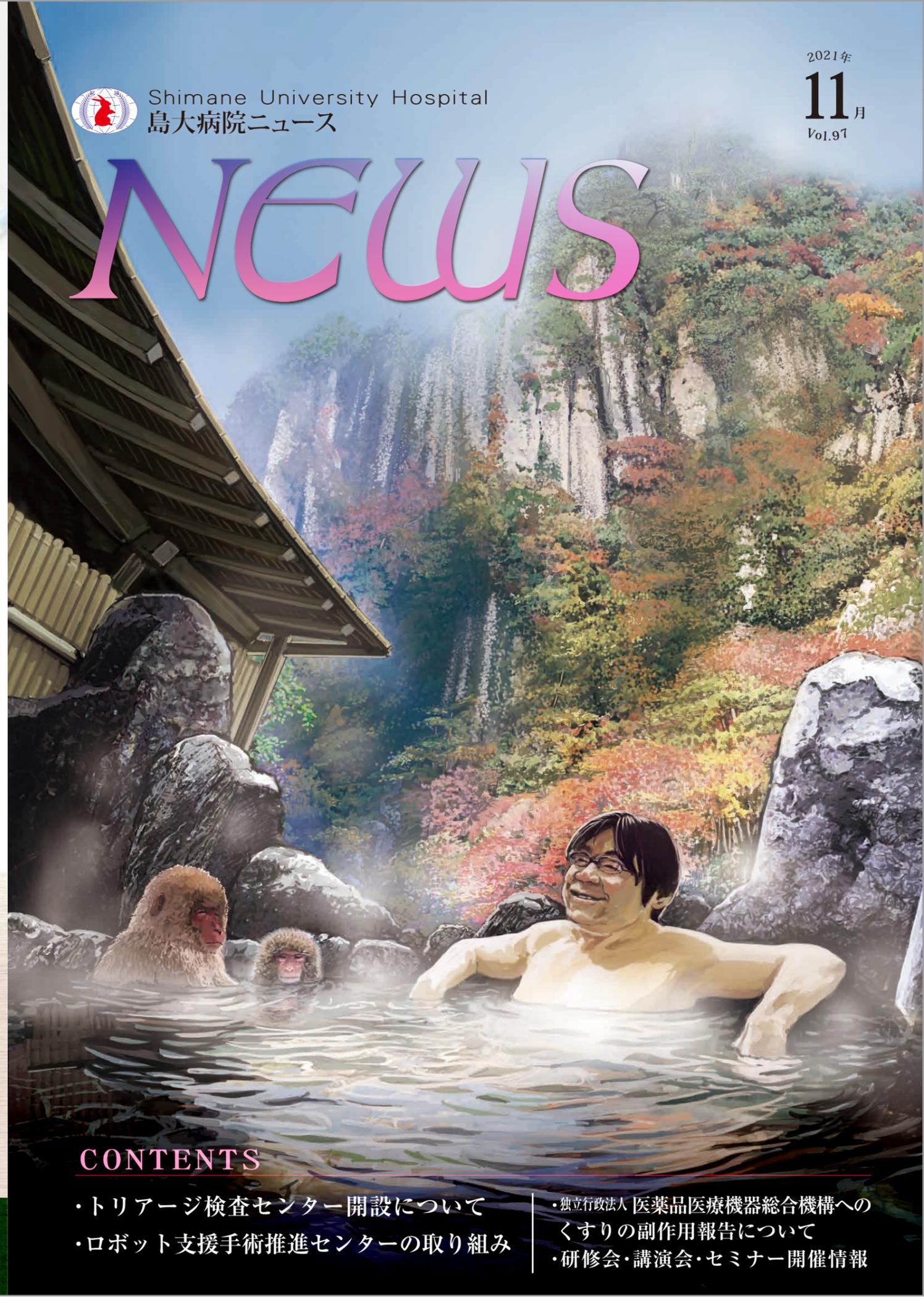
11月15日～12月14日 対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/29(月) 18:00～19:15	島根大学がん医療従事者研修会 いま医療者に知って欲しい「遺伝性腫瘍の基礎知識」	Zoomミーティングを用いた オンライン形式	医療	島根大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部
12/11(土) 12:50～17:00	第32回島根県がん登録研修会	Zoomミーティングを用いた オンライン形式	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部会実務担当者研究会 松江市立病院 島根県健康福祉部健康推進課 島根大学医学部附属病院
9/17(金)～ 12/16(木)	令和3年度 第2回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・トリアージ検査センター開設について
- ・ロボット支援手術推進センターの取り組み

- ・独立行政法人 医薬品医療機器総合機構へのくすりの副作用報告について
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報



写真:トリアージ検査センター

トリアージ検査センター開設について

COVID-19検査センター センター長・検査部 部長 **やの しょうぞう 矢野 彰三**
 感染制御部 部長・副病院長 **むらかわ ようこ 村川 洋子**

当院では11月1日よりトリアージ検査センターが開設になります(写真、地図)。コロナ禍を乗り切るため、新型コロナウイルス検査を実施できる施設となっています。

トリアージ検査センターは、入院前・手術前の患者さんや自費検査で来院される方に対して、新型コロナウイルス検査を行います。問診、検体の採取、抗原定量検査またはPCR検査を1か所で行うことができます。陰性確認を目的とした無症状の方を対象としています。**発熱・咳・全身倦怠感など症状があり、感染が疑わしい場合は、かかりつけ医等の医療機関の受診が必要となり、当センターの検査対象になりません。**

入院や手術前の患者さんにおかれましては、感染に気付かないまま入院治療や手術を行うことによる患者さんご自身の病状への悪影響や他の患者さん、関係する医療スタッフへの感染を予防することが必要です。入院前・手術前の新型コロナウイルス検査にご理解ご協力賜りますようお願い申し上げます。

また、自費検査につきましても、当センターに場所を移し、無症状の希望者を対象として完全予約制・全額自己負担での検査を行います(表)。引き続き、当院の自費検査をご利用いただきますようお願い申し上げます(詳しくは病院HPをご覧ください)。



COVID-19検査料金表 (2021年11月1日より)		ホームページ QRコード
	料金(税込)	
抗原定量検査	9,900円	
PCR検査	18,920円	
陰性証明書1部 (日本語版または英語版)	2,200円	



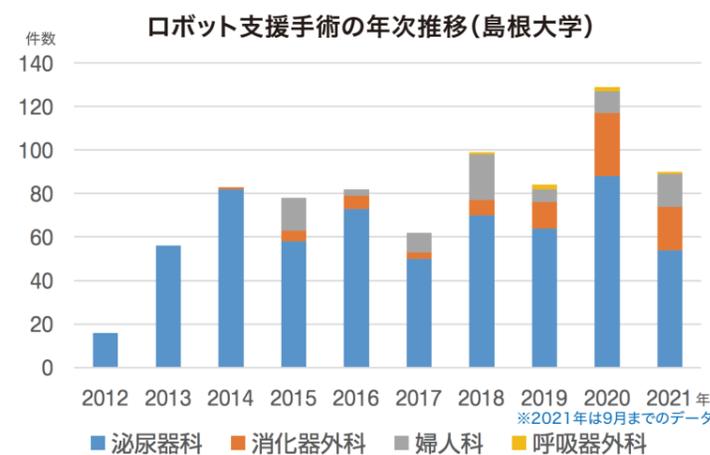
ロボット支援手術推進センターの取り組み

ロボット支援手術推進センター センター長 **わだ こういちろう 和田 耕一郎(泌尿器科)**
 副センター長 **ひらはら のりゆき 平原 典幸(消化器外科)**
 副センター長 **やまもと てつ 山本 徹(消化器外科)**

2021年9月よりロボット支援手術推進センター長を拝命した和田耕一郎です。2012年の導入から約800件のロボット支援手術を実施してこられた諸先生方のご尽力に敬意を表するとともに、これからのロボット支援手術の推進に、微力ながら最大限努力をして参りたいと思っております。

ロボット支援手術の導入時は泌尿器科手術のみでしたが、外科や婦人科手術の割合が増加しつつあります。さらに、呼吸器外科の山根正修教授のチームが、肺がんに対するロボット支援手術を今年9月に島根県内で初めて実施しました。このような状況下でロボット支援手術推進センターが果たす最大の役割は、ロボットを多くの診療科で円滑に運用し、より質の高い手術をできるだけ早く、地域の患者さんに受けて頂くことです。今回、山根教授もセンター構成メンバーに加わっていただき、ロボット支援手術予約システムの構築とロボット稼働率の向上並びに、悪性腫瘍手術の待機期間の短縮を目指します。また、麻酔や術後看護を担当する手術部、MEセンターや事務も重要なメンバーとして参画し、センター内でコミュニケーションとバランスをうまくとりながら運用しています。

安全で質の高いロボット支援手術を多くの患者さんに安心して受けて頂くためには、当センターだけでなく、関連病院や近隣医療機関の医療従事者の方々、患者さんのご理解とご協力が不可欠です。これまで通り、本誌を手にとっておられる皆様のご支援とご指導を賜りたいと強く思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



当院で実施実績のある対象疾患

診療科	対象疾患
呼吸器外科	肺がん
	縦隔悪性腫瘍 縦隔良性腫瘍
消化器外科	食道がん
	胃がん 直腸がん
婦人科	子宮体がん
	子宮良性腫瘍
泌尿器科	前立腺がん
	腎がん(腎細胞がん)
	膀胱がん



ご報告



ご報告



生命科学講座の紹介

生命科学講座 教授 まつざき ゆみ
松崎 有未

島根大学医学部生命科学講座は生物学・化学・物理学の3つのユニットで構成され、教養育成科目を担当してきました。特に、基礎医学を学ぶために必須な生物学的な基本知識を短期間で学習することを目的とした医科基礎生物学、人体生理学の入門を意図した分子細胞生物学2を開設し、高校で生物を受講していない学生が多くを占める当学において医学初期教育における重要な役割を果たしています。また医学教育だけでなく、細胞を生きのまま分離できる装置(セルソーター)を用いた幹細胞研究と再生医療分野での臨床教室との共同研究にも力を入れており、現在以下のような研究テーマを展開しています。

- ① 間葉系幹細胞の増殖・分化・老化メカニズムの解明
- ② 超高純度ヒト骨髄由来間葉系幹細胞を用いた臨床研究
 - (ア) 低ホスファターゼ症に対する新規治療法の開発(島大・小児科)
 - (イ) 脊柱管狭窄症に対する細胞治療の開発(北大・整形外科)
 - (ウ) 変形性関節症動物モデルを用いた細胞治療(島大・整形外科)
 - (エ) 顎骨再生実験動物モデルの作出(島大・歯科口腔外科)

このうち、低ホスファターゼ症に対する超高純度ヒト骨髄由来間葉系幹細胞の移植は世界初の試みで、本年度から患者さんに対する治験が開始されています。移植された細胞による効果が出れば、これまで治療法の存在しなかった疾患が根治できる画期的な治療法となります。今後の展開にご期待ください。

問合せ先 生命科学講座 TEL:0853-20-2351

ワークライフバランスセミナーを開催しました

地域医療支援学講座 助教 ほった ゆきえ
堀田 優希江

地域医療支援学では島根県からの委託を受けて、ワークライフバランス事業を行っています。

この度、9月13日にワークライフバランス支援室、島根大学ダイバーシティ推進室と共催にてワークライフバランスセミナーをハイブリット形式で行いました。「男性育休が働き方も組織も変える!」と題し、第1部では育児休業を実際に取得した眼科学講座助教の杉原一暢先生と、医科医員の河野通大先生にお話しいただき、第2部では「笑っている父親になろう」と活動されているNPO 法人ファザーリングジャパン理事の徳倉康之先生にお話しいただきました。

眼科学講座の先生方ともに育休中は有意義な時間が過ごせ、もし次子が誕生することになれば育休を取りたいと宣言されていました。また、お二人の上司であるイクボス谷戸正樹教授にもお話しを伺い、育休が充実したものになっていたことをやさしい笑顔で喜ばれていました。

徳倉先生は働く人すべてが働きやすく、つまり休みがとりやすい環境を作ること、制度を変えるのではなく組織の風土を変えることを心掛けていくことが大切であると話されました。今後は育児だけでなく、介護を行う人々も増えていきそれぞれに抱える制約も異なってきます。それぞれの条件を考慮したチーム作りなど少しの工夫で人が辞めない組織を作ることができるとのことでした。

各々のキャリアとライフを応援できる風土が大学全体に広がることが期待できるセミナーとなりました。

組織をマネジメントする立場の方から、今後育休を取ろうと考えている人まで多くの方に聞いていただきたい内容ですので、当日は聞き逃したが、ぜひ聞きたいという医療関係者の方にはオンデマンドの配信が可能です。地域医療支援学講座までお問い合わせください。

問合せ先 地域医療支援学講座 TEL : 0853-20-2558



①徳倉先生 ②谷戸先生 ③杉原先生 ④河野先生

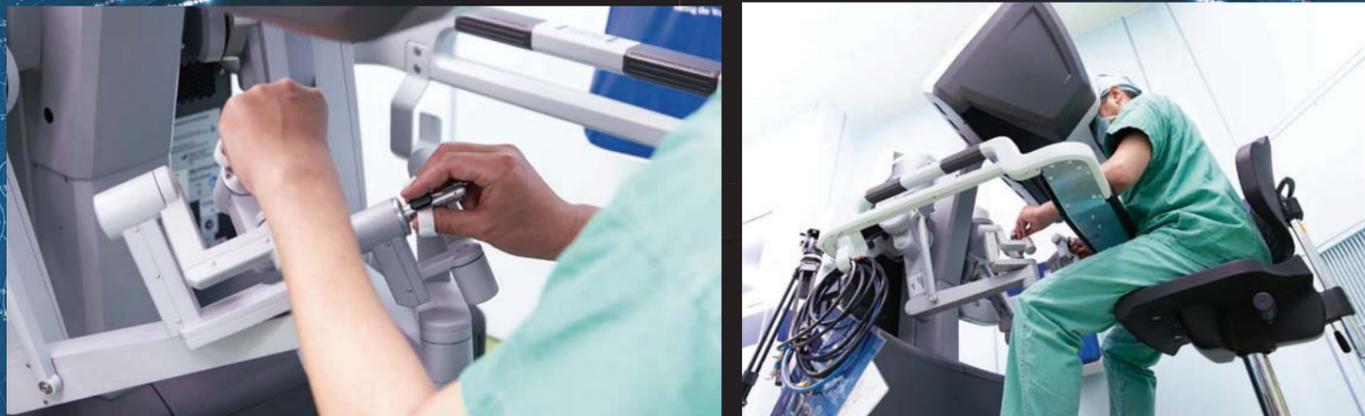


セミナーの集合写真





ご報告



島根初

肺がんのロボット手術を開始しました！

外科学講座 呼吸器外科学 教授 やまね まさおみ
山根 正修

ロボット手術は外科医が遠隔操作でロボットの腕を動かし胸腔鏡(3Dカメラ)の手術をする最先端の手術方法です。ロボットの腕(手術道具、カメラ)は細かく、正確な動きができます。手術のための皮膚の傷は小さく、8mmの傷が4か所と35mm程の傷が1か所です。患者さんの体への負担や痛みは少なく確実な手術ができ将来的に成績向上が期待されています。

現在までロボット手術は泌尿器科や婦人科の手術で多く行われ普及していますが、肺がんでは保険診療を認定された医療施設は全国的にも少なく、島根県にはありませんでした。

2021年8月に島根大学医学部に外科学講座呼吸器外科学が開設され、ロボット手術の保険診療の認定基準が満たされたため、9月に承認申請を終え、ロボット手術を開始しました。ロボット手術を受けたいずれの患者さんも痛みの訴えはなく順調に経過し、数日後にはお元気に退院されました。今後は年に50~80件程度のロボット手術をご提供できると考えています。



問合せ先 呼吸器外科外来 担当：成相 TEL：0853-20-2384



ご報告

根治を目指した 局所進行性肺がんに対する 拡大手術

呼吸器外科・心臓血管外科による手術療法
抗がん剤治療(呼吸器内科)
放射線治療(放射線治療科)

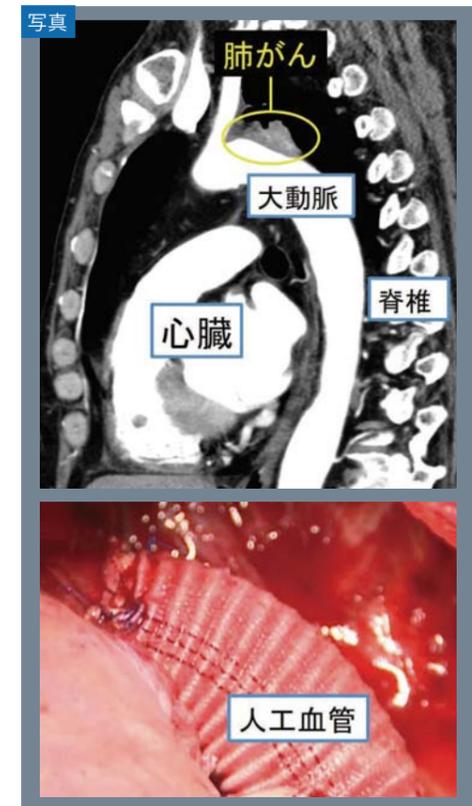


外科学講座 呼吸器外科学 教授 やまね まさおみ
山根 正修

日本では喫煙者は年々減ってきており、厚生労働省の調査では2019年の男性の喫煙率は27.1%(女性7.6%)と1989年の55.3%(女性9.4%)と比べて大幅に低下してきました。日本人を対象とした研究(2008年)では、肺がん発生率は喫煙により男性で4.8倍、女性で3.9倍高いリスクがありました。しかしながら肺がんによる死亡者数はがんの中で最も多く毎年5万3千人の方が亡くなっています。禁煙と早期発見・早期治療が大切な病気ですが進行が早く、見つかった時には完治が難しい状態であることが多い病気です。

写真は肺がんが心臓近くの大動脈という全身の血液を送り出す大きな血管まで広がり進行した病状のCT画像です。一般病院での手術治療は難しい状態ですが、人工心肺を用いることにより、肺がんの広がった大動脈を切除することができました。切除した大動脈は心臓血管外科により人工血管でつなぎ合わせました(写真)。手術でがんは取り切れていますが再発のリスクは高いため、抗がん剤治療、放射線治療を追加した集学的治療を行います。

当院呼吸器外科では、周りの血管や骨、内臓に広がったり、リンパに転移するなど局所で進行した肺がんに対して積極的に切除を検討します。通常の肺がん手術より大きな手術である“拡大手術”を行います。さらに呼吸器内科による抗がん剤治療、放射線治療科による放射線治療を組み合わせた最先端の肺がん治療である“集学的治療”により進行がんの完治率向上を目指しています。今後は分子標的治療や免疫療法など新しい治療も組み入れていきます。



問合せ先 呼吸器外科外来 担当：成相 TEL：0853-20-2384





ご報告



出雲キャンパスクリーンデー(10/8)の実施について

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

例年、10月に開催される諸行事(解剖体慰霊祭, オープンキャンパス等)に合わせて計画している第2回目のキャンパスクリーンデーを10月8日(金)に実施しました。

当日は、清秋の候というよりも汗ばむ陽気の中、約70名の職員が医学部区域と附属病院区域建物周辺の除草・剪定及び落ち葉の回収作業に従事しました。作業後はさっぱりとした景観となりました。

また、C病棟5階屋上にある庭園は新型コロナウイルス感染症により外部ボランティアの病院内への立ち入りが制限されたことから手付かずの状況でしたが、キャンパスクリーンデーに合わせて、C病棟5階関係者により除草作業が行われました。



ご報告



職員による環境整備ボランティア活動を行いました

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

毎年、当院の環境整備は、地域のボランティアの方々に定期的に行っていただくほか、業者に委託して行っていますが、4年前から、職員のボランティアによる環境整備も実施しています。今年も、新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ始めた10月9日(土)に実施しましたところ、医師をはじめとした教育職員、医療職員、事務職員50名近くの参加がありました。

当日は、仲秋というより幾分暑さを感じる天候でしたが、椎名病院長や鬼形医学部長にも参加いただき、臨床研究棟・第二研究棟周辺の除草・剪定や落ち葉拾いとC病棟5階屋上庭園での花苗の植栽を行いました。特に、屋上庭園はブロックを用いてアンパンマンの顔が描かれているのですが、花苗によってどのような彩が加わっていくのか今から楽しみとなりました。

コロナ禍ではありますが、今後も感染に配慮し、環境整備ボランティア活動を積極的に行い、当院の美化を維持するよう努めてまいりますので、ご理解・協力いただきますようお願い致します。

